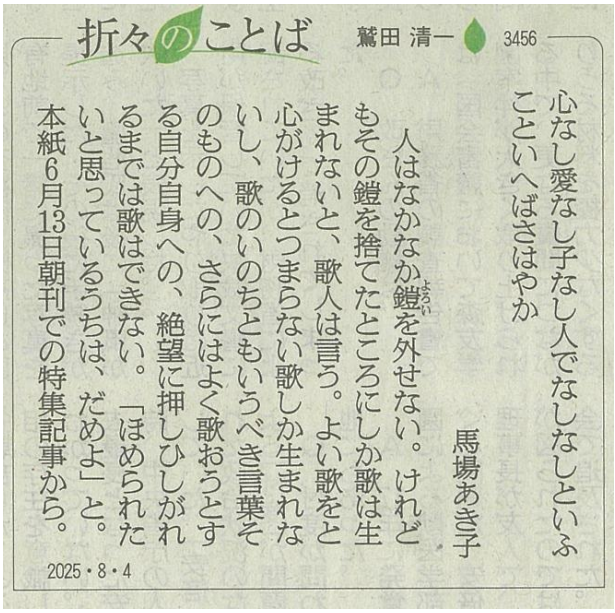
YC KOCHOだより 289 KC　令和７年(2025年)８月19日

YIC 調理製菓専門学校・北九州調理製菓専門学校　須内章雅
Sunouchi Akimasa

○ ことば

８月４日付朝日新聞の記事です。今回はかなり難解な内容ではないかと思います。純粋芸術の世界で創作活動をしている人は「そのとおり！」とうなずかれると思いますが、私のような平凡な人間には「？」となりそうです。ただ、私はかつて美術・絵画を学んでいましたので、「ほめられたいと思っているうちは、だめよ」という内容と近いことを言ったり言われたりしていました。そのため少しは「そのとおり！」と思う面もあります。



折々のことば　鷲田 清一　3456

心なし愛なし子なし人でなしなしといふことといへばさはやか

馬場あき子

人はなかなか鎧を外せない。けれどもその鎧を捨てたところにしか歌は生まれないと、歌人は言う。よい歌をと心がけるとつまらない歌しか生まれないし、歌のいのちともいうべき言葉そのものへの、さらにはよく歌おうとする自分自身への、絶望に押しひしがれるまでは歌はできない。「ほめられたいと思っているうちは、だめよ」と。本紙6月13日朝刊での特集記事から。

2025・8・4

調理製菓の学校に勤めている今、学んでいる（学ぼうとしている）若者はほぼ全員「自分の作ったものを食べておいしいと言ってもらいたい。食べた人の笑顔が見たい」と思っていたり、発言したりします。これは全く「そのとおり！」であって否定するものではありません。しかし、特別な状況においては記事の内容を振り返ってみる価値はありそうです。私はその具体例をいくつか構想してみましたが、このたよりには記述しないでおこうと思います。たまには「どんなこと？」と思い悩んでみて何らかの回答を見つけることも、自分を一段階成長させてくれるのではないでしょうか。

○ 鎧

上の記事とは全く関係がありませんが、かつて長年購読していた芸術新潮という雑誌に「忘れられた日本美の粋・男の晴れ姿」という特集（1986年６月号）があったことを思い出したので少し紹介してみます。戦（いくさ）（戦争）はあってはならないものですが、これらの飾り兜（変わり兜）を見ていると武将たちの思い（願い）が伝わってきます。蝶や蜻蛉（とんぼ）は攻撃をひらりとかわすというような意味もあるそうです。信仰心や義経の武勇を題材にしたものもあります。当時はまだ珍しかったカボチャもあります。戦いという必死な場での晴れ姿でもあったそうです。

○ 自校自賛

YC校の部屋で静かにメダカを飼っています。かつては玄関に置いてみんなに鑑賞してもらっていましたが、ストレスになりそうなので今回は公表していません。小さな命が一生懸命に生きています。